

篠原幸雄からやましたゆきおへ

# マンガと生きた50年

8

週刊少年マンガ誌で初の医療マンガ

「負けずの大五」を連載



ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「マンガと生きた50年」は、東京都江東区・森下文化センターにて2017年10月20日(金)から29日(日)の会期で開催しました。新つれづれ草マンガ展「篠原幸雄からやましたゆきおへ マンガと生きた50年」で展示した展示物を再構成したものです。

**おやしマンガ同人誌**

つれづれ草 **マンガ展**

篠原幸雄からやましたゆきおへ

# マンガと生きた50年

おやしマンガ同人誌「新つれづれ草」の山下幸雄は1970年少年ジャンプから篠原幸雄としてマンガ家デビューその後、マンガ家、デザイナー、編集者としての立場を変えながらマンガとの関わりを持ち続けて生きてきた。そして今再び、やましたゆきおとしてマンガを描き始めた！

入場：無料



イラスト：篠原幸雄  
(著者少年ジャンプと週刊少年マガジン掲載、週刊少年マガジン)

**日時：10月20日(金)～10月29日(日)**  
午前9時より午後9時まで(最終日は午後5時まで)

**会場：森下文化センター1F展示ロビー**  
**お問合せ：森下文化センター**  
〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17  
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677  
都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分  
都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分  
<http://www.kcf.or.jp/>

主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター





# 8、週刊少年マンガ誌で初の医療マンガ 「負けずの大五」を連載

「ジャンプ」と決別したあと、おもに秋田書店（まんが王、冒険王、少年チャンピオン）で描きました。「冒険王」で描いた読み切り作品「ともだち」を、当時の壁村耐三編集長がすぐく褒めていたというのを担当編集者の阿久津さんから聞きました。それもあって「少年チャンピオン」で描かせてもらい、連載をすることになりました。それが『負けずの大五』という医者を主人公にしたマンガです。

その連載が始まったとほぼ同時に、手塚さんの『ブラックジャック』が漫画家生活30周年企画とし



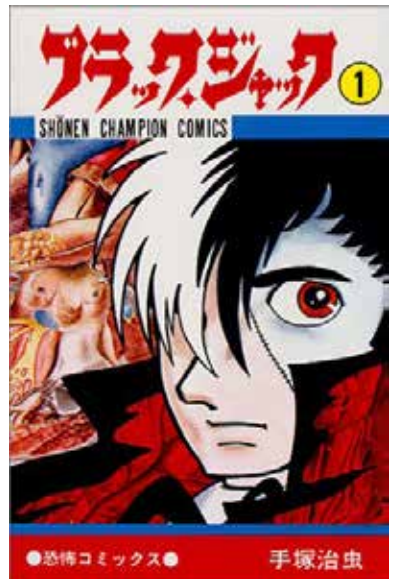
『負けずの大五』（少年チャンピオン連載）



て始まったんです。同じ雑誌に医療マンガが二本載っているというのは今思うとすごいなあと。しかも相手はあの手塚さんで。

でも連載していた当時は、毎週自分のマンガを描くことで頭の中は一杯で、掲載誌の少年チャンピオンもちゃんと見ていませんでした。ブラックジャックが新連載される号のトビラ絵は見た記憶があるのですが、自分の負けずの大五と比べる様なことは無かったです。

ずっと後年になって、「ブラック・ジャック創作秘話〜手塚治虫の仕事場から〜」というマンガで「負けずの大五」の連載当時のいきさつを描きたいと取材を受けたときに、「あくそついうことがあったのか」と改めて実感したくらいでしたから。



『ブラック・ジャック』（秋田書店刊）



ブラック・ジャック創作秘話〜手塚治虫の仕事場から〜 Vol.3収録の第13話「一番打者」（秋田書店刊）に当時のいきさつが

## 杉山義法さんに原作をお願いした

『負けずの大五』はとにかく週刊連載ですからね。毎週毎週描くわけで、それはもう過酷なスケジュールなわけです。医療をテーマに描きたいという気持はあったけど、とてもストーリーをまとめる自信はなく、原作付きにしました。

その原作をやってくれたのは、杉山義法さんというシナリオライターでした。杉山さんは僕の古くからの恩人で、中学のときに英語を教わった家庭教師の旦那さんで、当時はまだ駆け出しだったんですが、僕が描いたマンガを読んでくれたりして、その後長いおつきあいをさせてもらっていました。

結婚したときに、杉山さんご夫妻に仲人をして頂きました。



## 連載終了後に……

僕が原作をお願いしたときは、杉山さんは大河ドラマの脚本を書くような大御所になっていて、それでも原作をこころよく引き受けてくれました。ほとんどギャラもなかったんじゃないかな。本当に感謝してもきれないです。

連載は10回続きました。そのあと壁村編集長に呼ばれて、「お前はもう使わないよ」と壁村さんに直接言われました。

そのときの言葉の真意はわかりません。文字通り「使わない」ということなのか、それとも「使える原稿を持ってこいよ」ということなのか。半年ぐらい冷却期間を置いて、新しい原稿を描いて持ち込んで、気に入ってもらえれば……なんてことは、その時には考えられませんでした。

今さら「ジャンプ」にも戻れないし、どうしようとかと考えたとき、自分でマンガ雑誌を作るとを思い立ったんです。

文・新つれづれ草第7号掲載「つれづれインタビューマンガびと」より抜粋加筆



## 「ふしぎな仲間たち」で放浪編を

「負けずの大五」の連載の後、秋田書店でも発表の場を失った私は、自分の描きたいマンガを発表できる場(雑誌)を自分で作ろうと思った立ちました。

当時のマンガ雑誌には自分の描きたいマンガを発表できる場が無い、という不満を持った同世代のマンガを描く仲間が集まり、自費出版のマンガ雑誌「ふしぎな仲間たち」を発行。

その中で、負けずの大五の放浪編を読切作品で2話描き発表しました。

現在、少年チャンピオンで連載した部分を、全2巻として、放浪編の2話を収録し3巻として、電子書籍で発行されています。



AmazonのKindleおよび一般電子書籍サイトで発売中の「電子書籍版・負けずの大五(1・2巻)」



AmazonのKindle版電子書籍で発売中の「電子書籍版・負けずの大五(3巻)」